

～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～

みんなで学び、みんなでつながる「紫波の教振」(岩手県紫波町)

取組の基本理念

教育振興運動[略称「教振(きょうしん)」]は、教育水準の向上をめざし昭和40年に始まった岩手県独自の教育運動である。子ども、親、学校、地域、行政の5者それぞれが役割分担と責任を明確にし、相互に連携しながら地域の教育課題に自主的に取り組んでいる。

教育振興運動は、子どもたちの生きる力を育むとともに、関わる大人の生涯学習の場となり、地域づくりにも寄与するものである。



事業概要

「みんなで学び、みんなでつながる紫波の教振」というスローガンのもと、学びを通じて地域コミュニティを再生し、地域の復興・発展を担う「ひとづくり」を進めるため、以下の事業を実施する。

- I: 「家庭学習の充実」及び「読書活動の推進」
- II: 地域の団体と連携した活動への子どもの参加促進
- III: 紫波町社会参加活動の充実と各地区実践発表会の支援
- IV: 学校時間外における子どもの過ごし方や学習活動の支援



取組の概要

【家庭教育支援総合推進事業】

子育て世代の学習・親同士の交流機会の促進を図り、家庭の教育力の向上を図る。



【紫波っ子サイエンス教室】

天体望遠鏡による惑星・月・星雲等の観察や、風やモーター・熱を利用した実験を行い、様々な科学現象について学ぶ。



【読書活動推進事業】

子どもに読書に親しむ機会を提供するとともに、読み聞かせボランティアの育成とスキルアップを図る。



【放課後子ども教室】

子どもにとって安心・安全な居場所を確保するとともに、放課後や週末における文化活動・体験活動を支援する。



【紫波町社会参加活動】

各地区における行事への参加・運営、環境整備、異世代交流等、様々な場面で地域の一員として活動し、地域住民との交流を図る。

